



大野市教育委員会たより

令和元年7月17日発行 第10号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月9日（火）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：上庄小学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：上庄小学校保護者（出席者23人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎今後、計画の素案を作成して説明会を行うのか。

⇒ ■その予定である。

⇒ ◎その説明会で素案に対して反対した場合、その意見を聞いてもらえるのか。

⇒ ■素案に対する意見を聞くために説明会を行う予定である。多くの皆さんに納得いただけるように、まずは皆さんの意見をたくさん聞いた上で素案を作成しようと思っている。これまで意見交換で回ってきた中で、学校再編で一番心配されていることは、通学の時間・距離に関してである。

◎小学校は小規模校で良く、中学校は1校の再編でも良いと思っている。地域から学校がなくなると過疎化が進むと思う。そこまで加味して考えてほしい。まちなかに学校を持っていくルールはないと思う。村部の学校は自然も多く、子どもたちにとっては良い環境だと思う。若い人たちが村部に残る理由にもなる。

◎移住のとき、子どもが歩ける範囲に学校があることで安心できた。移住希望者の相談では、絶対学校について聞かれる。しかし、小学校と中学校は要素が違う。中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。

◎教育シンポジウムで、六呂師の方が六呂師小の再編について、今でも正解だったか悩んでいると言っていた。自分たちもそのような思いをしたくない。できれば小学校を残してほしい。今後、計画素案が出来たとき、もうひっくり返ることはないと思う。もし、ひっくり返したら、再編が進まなくなる。

⇒ ■みんなが納得できる方法がどこかにあると考えている。慎重に丁寧にやっていきたい。

⇒ ◎市街の人は切迫感がない。村部の子どもが市街に来ると思っている。和泉地区については、冬期間の道の危険性もあるのでよく考えてあげてほしい。

◎上庄中が別の中学校に再編された場合、校舎はどうなるのか。

⇒ ■再編された学校の跡地活用は、地区によってそれぞれである。六呂師小は民間団体が、森目小は福祉施設として活用されている。蕨生小はまだ市の施設となっている。他の市町では民間に譲渡したり、貸したりしている。地区で利用する意向があれば、それに沿った対応を検討することになる。

⇒ ◎上庄中をスクールバスの停留所として利用し、施設管理は市でやってもらう方法を意見したことがある。その際、維持管理経費が掛かるため、地区で活用方法を考えてほしいということだった。登校で各地区をバスが回る場合、最初に乗った生徒は時間が長い。

⇒ ■上庄中に集まってもらうのは1つの案と考える。もしくはバスを増便して、乗っている時間を短くする方法も考えられる。通学時間や距離をよく検討していきたい。

⇒ ◎市で廃校活用案を検討してほしい。

⇒ ■学校は避難所にもなっているので、再編後の跡地活用は検討していかないといけない。

◎子どもが減り、いずれは上庄小学校がなくなるとは避けられないと思っている。良い教育を受けられれば問題ないと思っている。子どもが悪いことをした時でも受け止められる教育をしてくれればいいが、中学校1校の再

編はしてほしい。近くにライバル校があった方が競争できる。1校だと大野で1番学力が低い者が露呈する。何をしても、大野で一番出来る者、一番出来ない者が分かってしまう。いじめにつながる場合もある。

⇒ ◎教育において順位付けをしない方向に変えられないのか。勝つためのスポーツ、勝つための勉強をしないといけないのか。

⇒ ■今の教育では、勉強できないから怒られるということはない。部活では勝利至上主義が薄れてきている。部活では、チームの総合力がなければ勝てないとともに、心技体が揃わないと勝てない。部活はそのような面を養う意味もあると思っている。

◎中学校が1校になると、県も高校を1校にするかもしれない。クラス替えができることは子どもたちにとって、気分転換にもなるし、友だちをたくさん作れる。大学などで県外へ出てしまえば帰って来ない中で、学校を再編することでどんどん帰って来ない状況にしてしまうのはどうかと思う。また、部活のために大規模の学校にしていくことに疑問を感じる。中学校1校、小学校2校には反対である。

⇒ ■どのくらいの校数を考えているか。

⇒ ◎小学校は今の校区で残して欲しい。上庄地区は小学校から中学校まで9年間同じなので、中学校では別れてもいいかなと思う。

⇒ ■上庄地区は保育園もあるので、人間関係がずっと同じである期間が長い。それは良い面も悪い面もある。

◎ずっと同じ学校で、自分は特に悪い面は感じなかった。卒業してから新しい学校なら良いが、途中で一緒になることに子どもは納得できるか。

⇒ ■途中からという場合の対応も、しっかり考えていきたい。

◎再編で一番心配したのが子どもの通学方法である。現在も家から車で送り、途中から歩いて通学している。みんなが平等な通学時間になるように計画してほしい。

⇒ ■勝原地区の子どもはタクシーで学校へ行っている。7時20分に出発して7時30分には富田小学校に到着している。スクールバスで各地区を回することで時間が掛かる場合は便数を増やしたり、少人数の場合はタクシーを利用したりするなどいろいろな方法が考えられると思う。

⇒ ◎大雪の時、特別支援学校のバスが運休し保護者が送迎する状況となった。そのため学校を何日か休んだことがある。再編でスクールバスになった場合、保護者の負担が増える状況になることを心配している。

⇒ ■共働き世帯が多いのは承知している。子育てに負担のないように考えていかなければならないと思う。

◎1、2年生の時は学校まで乗合バスで送迎してもらえたが、3年生からは徒歩通学となっている。時間が掛かるので7時前に家を出るため、6時前にはご飯を食べている。再編で学校が遠くなれば、どうなるのか不安である。小学校は地域の行事に参加して育ててもらえており、大事なことと思っている。小学校は人数が少なくても良い。中学校は部活や人間関係のことがあるので、多い人数の方が良い。中学校は1校ではなく、せめて2校だと思う。

◎複式学級でも良いと思う。上庄小で良い所は、子どもだけでなく、その保護者の顔も分かることである。悪い所は、子どもも先生も少なく、広い学校を掃除し維持していくのが大変である。再編では登下校が心配である。今は家を出るのが6時50分で集合が7時5分である。現在も、よく遅刻するのでスクールバス通学を心配している。親の送迎を必要とした場合、学校周辺が渋滞になることもある。

◎教育を考える上で夢を語っていかないといけない。子どもたちがこうあるべきだから、こうしてあげようというのが大人の責任だと思う。新しい人の出会いが自分の成長に結びついていると感じている。固定されたメンバーで上庄小、上庄中の9年間が続く中でどれだけの刺激があるのか。他の学校との交流や大きな集まりの中に参加するというで解決する場合もある。いろいろな人と交わって人間性を磨く機会を大人たちで与えてあげたい。

⇒ ■複式学級のある学校は、他の学校と積極的に交流を行っている。多くの人との交流が基本的に大切だと思っている。

◎考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じるができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。

⇒ ■部活は市全体で取り組む形になっていくように思う。いろいろな種類の部活を求められても、学校だけでは不可能になっている。しかし、地域で誰が見てくれるかが問題である。

◎先般開催された青少年健全育成推進大会で発表した上庄小の児童の発表が素晴らしく感動した。自然を感じなが

ら地域の学校に通っている環境が背景にあると感じている。

◎市は学校再編を絶対必要と思っているのか。何校ぐらいが大野にとってふさわしいと現段階で考えているか。

⇒ ■財政による適正規模は想定していない。再編校数については、多くの方々の意見を参考にしながら検討していく。市としては、子どもたちの教育を考えると学校再編は必要だと考えている。

⇒ ◎みんなが納得した形で進めていくということか。

⇒ ■全員が納得できる再編は難しいと思っているが、なるべく多くの方が納得できる形（校数、再編時期、方法など）を探していかなければならない。

◎学校がなくなると地域が疲弊するのは間違いない。市全体で考えた時に、それでいいかということになる。また、中学校と小学校で抱えている課題は違う。それぞれで考えていくべきである。

⇒ ■小学校は各地区にあり、中学校は校区が広いため、課題は違うと考えている。今、子どもは毎年 200 人ぐらい生まれており、1年間で5人ずつぐらい出生数は減っている。市全体では過去10年間で毎年500人ずつ減っている。

◎再編によって、より勉強ができる環境になるのであれば行えばいいと思う。AIなどの技術が進み、田舎でもなんでもできる世の中になるのであれば、逆に再編がいらないのではないかと思う。

⇒ ■AIを扱う人間を育てていくために、学校の教育はこれからも必要であると考えている。文部科学省では、授業にも積極的にコンピュータやインターネットの技術を取り入れることとしている。現在は、子どもと先生が対面で授業をしているが、今後は離島などではテレビを使った授業が行われるのかもしれない。知識はテレビで学べるが、集団の中で人間性を築いたりすることはコンピュータでは出来ないと思う。

◎上庄は地域とのつながりを大事にしているので、それがなくなるのはどうかと思う。母校がなくなるのは寂しい。

◎2クラスの上庄中で育ち、高校で大きい人数の所へ行っただが、不便に思ったことがない。1クラスでクラス替えができないということは分かるが、子どもが少ないから再編することに対して「はい」とは言えない。六呂師小など再編した地域の方から、不便な所や悪い所を聞けると、保護者として再編の判断がしやすい。今、通っている中学生などからも再編に対して意見を聞いた方が良い。

⇒ ■市内の小学校6年生と中学校2年生すべてにアンケートを行っており、現在集計をしている。意見交換で一番不安に思われていることは、通学の心配である。

⇒ ◎スクールバスを利用した登校では、どこかの場所に一齐に集まるのか。

⇒ ■富田小では、各集落のポイントに集まり、スクールバスで登校している。運行ルートについては検討していくことになる。

◎上庄小の現在の人数はいい感じと思っている。自分は小学校を複式で育ったが、楽しい思い出しかない。大規模校を体験したことがないため、学級の人数が多くなった時、先生の目が届くのが心配である。子どもが一生懸命しているスポーツが上庄中の部活にないため、不びんに思っている。中学校生活で部活が占めるウエイトが大きいと思っているので、親として複雑な気持ちである。集団下校では、現在、上庄小では成り立っていない地域もある。遠くに行けば行くほど1人になるため、すごく不安である。また、スクールバスの場合、乗り遅れた場合どうなるのかなども心配である。

⇒ ■現在、下校では学校から家が遠くなればなるほど1人になる。その解決策は見出せていない。

◎人の多い所で、いろいろなコミュニケーションを養える環境が大事と思う。コンピュータなどでコミュニケーションはとれるが、相手の表情を見たり、目と目で向かいあったりすることが必要である。出来るだけ多い人数の中で教育を受けた方がいいと思っている。

⇒ ■多い人数で教育を受ける経験をいつするかだと思う。学年が1クラスの保護者の中には「人間関係がこじれたらどうしよう」、「6年間ずっと一緒にいいのでしょうか」など不安に感じられる方もいた。特に低学年の保護者であった。どの段階で（小学校または中学校）複数学級があった方がいいのかは難しいところである。教員の立場では、1学年で複数学級あった方が質の高い教育を行うことができると考えている。1学年1学級だと教員1人がすべてをやらなければならないため、そのやり方が良いのかどうか、判



断に迷う部分がある。複数学級だと、教員同士がお互いの指導方法に対して、お互いにアドバイスできるため、教育の質は上がる。

◎部活などの問題がなければ、少人数の方が良いと思う。自分は分校から本校に移ったとき、上下の学年と遊ばなくなり、同学年のみとなった。学校が大規模になった場合、いろいろな学年の交流による、より良い人間形成を築いていくためには、かなり工夫が必要だと思う。ねらいとしている多様な交流は難しくなる。大規模になったから、より良い人間形成が出来たという事例があると納得する。文部科学省は、海外に出て日本のために活躍する人材を育てようとしている。大野は、大野のために活躍してくれる人材を育てていくことを考えればいいかと思うと、校数は減らさない方がいいと思う。

⇒ ■上庄小の規模で良い所は、1・2年、3・4年、5・6年でそれぞれ2学年で何かをやっている所である。委員会活動も4年生以上で行っている。1学年2学級以上がある学校では、このような取組みは難しい。

◎この地域にずっと生活していかないとけない。学校がなくなり人がいなくなることで、地域が疲弊することを考えると、里山を守るために草刈りをしたり、農道を整備したり、集落排水を維持したりすることが出来なくなる恐れがあり心配だ。行政サービスを効率化するために、コンパクトシティを目指すことを聞いているが、まちの将来像として本当にいいのか疑問である。先日、青少年健全育成推進大会があり、各中学校の生徒の特色が出ていてすごく良かった。中学校が1つになると、そのような人材がいなくなるのが心配だ。

⇒ ■コンパクトシティは、生活の質を維持していくために、ある程度、まちを集約していかないと経済的に維持することは難しいという考えである。経済成長する中で、便利な社会、住みやすい社会を目指してきたが、人口減少の局面を迎えて、今までの生活の質を維持していくための方法として国が示している。私たちは、どういう社会を創っていくかを決断しなければならない。

⇒ ■国が示している学級人数は40人である。福井県で示している学級人数は、小学校では1年生から4年生までは1学級最大35人である。36人になると2学級となり、1学級18人となる。5・6年生は1学級最大36人である。中学校では、中1ギャップを考慮し1年生は1学級最大30人で、2・3年生は1学級最大32人である。

◎先生の考えを尊重したい。先生たちが1学年何クラスがベター、1クラス何人がベターであるかを聞いて、その平均値に対する良い点、悪い点を知りたい。地域が廃れていくという話は、地域ごとで考えていくしかない。先生がやりがいを持って教育していただかないと子どものためにならない。そのために保護者側は支えられるような環境を作っていけたらと思う。

⇒ ■働き方改革は先生を楽させるためではなく、質の高い教育を持続させていくために取り組んでいる。

◎中学校を2校にする場合、開成・陽明校区の生徒が上庄中に来るという考え方もあるのか。

⇒ ■長所、短所を吟味し、総合的に判断していく必要がある。各学校の規模なども考慮していかなければならない。

◎学校と地域を切り離して考えていかないとけない。地域の事情は大人の事情でもある。今の子どもたちが犠牲になるのは可哀想だ。学校再編は、子どもの教育環境を中心に議論して行ってほしい。現状として再編は必要だと考える。市外でも学校再編の議論を進めている地域がある。

⇒ ■地域コミュニティと学校は別で考えていく必要もあるかと思っている。地域コミュニティの核となっているのは公民館である。蕨生小と富田小を再編した後、蕨生地区の里神楽を富田小に通う子どもたちが蕨生地区の子どもたちに学びながら、一緒にやっている。

◎地域が廃れないように、地域が頑張るしかないと言うが、市がそういう施策をしてこなかったから、人が出て行って帰って来ないという現状を招いている。学校再編は市全体で考える必要がある。近年、子どもに関するいろいろな事件が発生している。学校で心の教育をないがしろにしてきた。基本的な部分も教育してほしい。

⇒ ■心の教育は大事にしたい。子どもに自信をつけさせてやりたいこともその1つである。加えて、安心して通える学校に力をいれている。

■意見交換会にまちづくりもテーマに入れると焦点がぼやける。まちづくり担当部署と連携して取り組んでいきたい。

ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

